

★ 勉学奨励金受賞者決定 ★

平成19年度財団法人香川大学学術振興財団勉学奨励金受賞者が決定されました。この勉学奨励は、毎年、本学の学生を対象に募集しており、今年度は論文の部4編、教育研究・課外活動の部に8件の応募がありました。

これらについて審査し、財団に申請したところ、論文の部4人、課外活動の部8件に、勉学奨励金が贈与されることになりました。勉学奨励金の贈呈式は、平成19年12月20日(木)に本学会議室で行われ、一井学長から賞状と奨励金が贈与されました。受賞者は次のとおりです。



受賞者の声

★受賞論文はホームページに掲載していますので、そちらをご覧ください。



● 論文の部 佳作(3万円)
「今の時代における大学の役目」
法学部3年 志宇知 純季

このような賞を頂けたことを、まづ心から感謝申し上げます。本文の中での私の主張は、いまの大学行政の方針に正面からケチをつける内容なので、賞など端から諦めていました。ですから今回思いがけずの受賞ということで、嬉しい気持ちでいっぱいです。

来るべき大学全入時代に向けて、大学が果たすべき役割は何なのか。即戦力の名の下に学士課程での専門科目重視の風潮が強まっている昨今ですが、本当に再考されるべきは「教養」の教育であろうと思います。正しい歴史認識、社会制度の把握、異文化と祖国への関心と理解。これらへの造詣なくしては、国際社会で活躍できる人材にも、各界の専門家にもなれたものではないと、私は確信を持って断言します。英語だけが外国語か。入った学部の間がすべてか。断じて否です。私の意見が少しでも大学側に聞き入れられるならば、これに勝る喜びはありません。

最後に、原稿執筆にあたってご協力頂いた方々に、この場を借りて御礼申し上げます。



● 論文の部 努力賞(2万円)
「今の時代における大学の役目」
教育学部4年 入江 祐加

今回、勉学奨励の賞をいただくことができて、大変うれしく思っています。

この論文は、自分の大学生活ですっと感じていたことや疑問に思っていたことを、文章にしたもので、このような機会を与えていただいたことに本当に感謝しています。私は今年卒業する予定ですが、今までの大学生活を振り返ると、様々な出会いがあり、ゼミや論文などで生きていく上での大事なことを考えることができ、初めは大学という場所に疑問をもっていただけの自分でも、今から考えると自分にとって大学という場所があって良かったと思います。この論文を書いたことは、今までの大学生活で私が出会った大切な友達、先生、そして多くの本と、その出会いによって支えられた私の成長の証であると思って、本当にありがたい気持ちでいっぱいです。



● 論文の部 努力賞(2万円)
「青年期における友人関係と自己形成」
法学部3年 大上 晃礼

この度はこのような素晴らしい賞を頂き、大変光栄に存じます。そもそもこの勉学奨励論文に応募しようと思ったきっかけは、去年の『学園の志おり』を読み、これは面白そうだと思っていたところ、掲示板に本年度のテーマの中にこのテーマを見つけたことからでした。これまでに自分の中で「自分とは?」「他者とは?」ということに関して日頃から考えたことがあったので、自分の考えを一度アウトプットしてみ、どの様な評価を受けるか見てみたい、という趣味の延長のような軽い気持ちで応募してみました。

実際に書いてみると、指定文字数の中に全てについて述べるのは無理なことが分かり、多くの表現しなかった事柄に関し目を瞑らざるを得ませんでした。今になって読み直してみると、論述が不十分な点が目につくのが残念ですが、短い文章の中に考えを込めるという機会を与えてくださったことを感謝しています。



● 論文の部 佳作(3万円)
「地球温暖化を考える」
こばやし みゆき
農学研究科2年 小林 美幸

この度はこのような素晴らしい賞をいただき、大変光栄に思っています。

今回、『地球温暖化』というテーマで論文を書こうと思ったきっかけは学生実験でした。TAとして学生実験の手伝いをする際に、今年からバイオディーゼルを作るという実験が加わりました。ちょうどその頃バイオエタノールのニュースをテレビでもよく取り上げていました。私の研究分野と似ている部分もあり、バイオエネルギーに対して興味を持つようになり調べていたところに『地球温暖化について』の論文募集があり、これなら今やっているから書けるのではないかと思いました。4000字という字数制限もあり、読み返すとまだまだ書き足りないところや分かりづらいところもあり、選ばれたことが未だに信じられません。

最後に、この論文を書くことができたのは友人たちや先生の助言があってこそだと思います。この場を借りてお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。



● 教育研究・課外活動の部(3万円)
医学部バレーボール部
ふくもと あき
(代表 福本 晶)
・第59回西日本医科学生総合体育大会
バレーボール女子 優勝

この度はこのような賞をいただき、大変光栄に思います。私たち医学部バレーボール部は8月に京都で行われた第59回西日本医科学生総合体育大会において優勝という成績を修めることができました。

今回の大会は参加自体も危ぶまれ、大会参加が決まったのも大会当日まで1ヵ月をきる頃でした。「優勝できるのはこんな時しかない!!」とチームが一丸となって1ヶ月間厳しい練習に耐えてきました。優勝という最高の結果はNo.1だけでなく、多くの人に支えられ一人一人のプレーを大切にしていけることができたオンリー1の経験となりました。

今後もこの賞を励みに、部員一同勉学と両立させながら日々精進していきたいと思っています。

最後になりましたが、私たちが常に温かく見守り、サポートして下さった顧問の土井先生、OBの方々、男子部員の皆さん、周りの仲間たちに心から感謝したいと思います。



● 教育研究・課外活動の部(5万円)
教育学研究科2年 やすとも たかのり
安友 孝宣
・第7回大阪国際音楽コンクール
管楽器部門 入選
・第3回ルーマニア国際音楽コンクール
管楽器部門 第2位
・東北福祉大学賞

教育学部在学中以来、3度目となる今回の受賞をとて光栄に思っています。

大学院に入学した2006年、ベルギーで「アドルフサクソ国際コンクール」が開催されました。4年に1度のコンクールで、サクソフンのコンクールとしては世界最高峰のものです。思いがけず参加できることになり、慌しい準備期間ではありましたが充実した時間を過ごせたと思います。様々な国の優秀な若手奏者と交流する機会を得たことで、クラシック音楽、そしてサクソフォンという楽器の素晴らしさを再認識することができました。今回の勉学奨励の対象である「ルーマニア国際コンクール」では、コンクール終了後も入賞者演奏会などの機会をいただきました。本当に良い経験をさせていただいていると実感しているところです。今後さらに研鑽を積み、音楽活動を継続できるよう一層努力していきたいと思っています。最後になりましたが、どんな時も熱心にご指導くださる青山夕夏先生をはじめ、私の活動に対して理解を示して下さる音楽領域の先生方に心から感謝申し上げます。



● 教育研究・課外活動の部(3万円)
医学部ヨット部
やぎ しほ
(代表 八木 志帆)
・第59回西日本医科学生総合体育大会
ヨット 総合優勝

このたびはこのような賞をいただくことができ、大変光栄に思っています。

私たち医学部ヨット部は、第59回西日本医科学生総合体育大会ヨット部門で総合優勝という成績を修めることができました。57回、58回と準優勝だったので、ようやくの優勝ということになりました。頑張り続けた部員たちや、応援し続けてくれた顧問の先生、OBの方々、マネージャーの皆さんに感謝するとともに、敬意を払います。本当にありがとうございました。

大学生がヨットをやるといえるのは、実は大変なことだと思います。何も知らない一年生が周りに支えられ、自分で努力して、技術を覚え、船の修理をできるようになり、部活を運営しながらヨットを楽しめるようになります。精神的にも身体的にも成長することが求められる、そんな中でもヨットを頑張ることができるのは、周りの支えあってこそ感謝の気持ちを持てる人間に成長していくのは、この部活の大変すばらしい伝統だと思います。

この伝統を受け継ぐと共に、このような賞をいただいたことを励みに、より一層努力していきたいと思っています。



● 教育研究・課外活動の部(3万円)
 医学部4年 伊勢 奈津美
 (医学部陸上競技部)
 ・第59回西日本医科学生総合体育大会
 女子3000m 第1位(大会新記録)
 女子1500m 第1位(大会新記録)
 女子800m 第1位

このたびはこのような賞をいただくことができ、大変光栄に思います。

私が所属する医学部陸上競技部は2年前、4人の仲間
 で医学部陸上同好会として結成しました。その後、年を重ねるごとに部員も増え、去年は陸上部として認められ、現在では医学部1年生から5年生までの部員が放課後や休日の時間を利用して練習に汗を流しています。

昨年の第59回西日本医科学生総合体育大会では念願のリレーに初出場し、4位入賞という成績を修めることができました。陸上競技は個人競技ですが、一人の力では練習はできません。今回、このような賞をいただけたのも、監督をはじめ、先輩、後輩、同期の仲間、周りで支えてくださる方々のお陰だと、とても感謝しています。

感謝の気持ちを常にもち、今後も勉学と課外活動を両立していけるよう、より一層努力していきたいと思ひます。



● 教育研究・課外活動の部(1万円)
 医学部2年 法里 政人
 (医学部ウインドサーフィン部)
 ・第46回九州・山口医科学生体育大会
 ボードセイリング部門
 ビギナークラス 第1位

この度、勉学奨励金を受賞させていただいたことをとても光栄に思ひます。この受賞は自分一人の力ではなく周囲の環境、人々に恵まれた賜物です。顧問の先生、多くの先輩方をはじめとしたウインドサーフィン部の方々、そして私の課外活動に理解をしてくれ、惜しみない支援をしてくれた両親に感謝の気持ちを示したいです。

今回の受賞のきっかけとなった大会での優勝は本当に嬉しかったです。大会に向けて手のマメをつぶしながら文字どおり血のにじむ練習をしてきて、その努力が幸運にも報われたことは、私の人生において努力をすれば同等の成功をもたらすものだ、確信させてくれました。また、賞を頂けるような今の自分があるのは先輩方の数々のご指導、サポートのおかげです。今回の受賞も含め、それらすべてを後輩達に還元していくことで、この受賞も自分一人のものではなく大きな意味のあるものにしたいと思ひます。



● 教育研究・課外活動の部(2万円)
 教育学部3年 増田 碧(水泳部)
 ・第54回全国国公立大学選手権水泳競技大会
 女子200mバタフライ 第8位

この度はこのような賞をいただき、大変嬉しく思っています。

私は昨年、神戸にて開催された第54回全国国公立大学選手権水泳競技大会において、100mバタフライで決勝に進出し、8位入賞しました。

全国大会ということもあり、会場全体の雰囲気はいつもの試合とは全く異なるものでした。そのせいもあってか、私は不安と緊張で押しつぶされそうになっていました。しかし、OBの方をはじめ、先輩、後輩、そして同期の仲間の暖かい応援が励みになり、このような結果を出せたのだと思ひます。

今回このような成績を修めることができたのは、私一人の力ではなくみなさんのおかげだと思ひています。本当にありがとうございました。

このような賞をいただいたことを励みに、これからも周りの方々への感謝の気持ちを忘れず、勉学と課外活動を両立していけるよう、より一層努力していきたいと思ひます。



● 教育研究・課外活動の部(1万円)
 医学部2年 井原 千尋
 (医学部ウインドサーフィン部)
 ・第46回九州・山口医科学生体育大会
 ボードセイリング部門
 ビギナークラス 第3位

今回この賞をいただいた事にとっても感謝しております。同学年に女の子のプレイヤーがいないという環境の中で、男の子に負けないぞ!!と頑張ってきた甲斐がありました。自然の中でするウインドサーフィンはとても素敵なスポーツです。自然相手なので、難しいところもありますが、やりがいがあります。色んな人との出会いもあり、大学生活がより充実したものとなっています。今回、大学側からも表彰していただけたという事で、今後も頑張ろうと、よりやる気も出てきました。今まで指導してきてくださった先輩方、ライバルでもあり一緒に頑張ってきた同学年のプレイヤー、船を出して練習の手伝いをしてくれるマネージャーの皆さん、支援してくださっているOBの先生方に感謝です♪♪



● 教育研究・課外活動の部(2万円)
 医学部陸上競技部
 (代表 藤森 健司)
 ・第59回西日本医科学生総合体育大会
 女子トラックの部 第2位

私たち医学部陸上競技部は、2007年度の西日医科学生体育大会において、女子トラック部門で2位という成績を残すことができました。医学部陸上部という名を聞いたことがない方もおられるかもしれませんが、私たちは2006年に同好会として発足し、2007年に部に昇格したばかりの、まだ歴史の浅い部活です。発足当初はたった4人だった部員も今では20人に増え、勉強と両立

しつつ、日々にながやかに練習に励んでいます。普段の練習は医学部グラウンドや屋島競技場で行っています。人数が増えたといっても、各種目に分かれての練習となると少人数になってしまうのですが、同じグラウンドで練習する仲間たちを励みに楽しく練習しています。各地で開かれる大会や合同練習会にも、同好会の時から積極的に参加し、人数も増え、活動もさらに活発になってきています。これからも、陸上競技が大好きな仲間達とともに、強く、大きく、楽しい陸上競技部にしていきたいと思ひています。